

報道＞諫早湾漁業被害編

タイラギ・アサリ・牡蠣被害

'91回顧 主役わき役

□ 2 ■

諫早湾で十月初め、有明海特産の二枚貝、タイラギが大量に死んでいるのが見つかった。海底には、厚さ二十センチから一メートルのヘドロ。死因は窒息死だった。

「四月には、片方の手のひらの下だけで、十五枚以上はいたのに」と北高来郡小長井町の漁業田実里志さん(三〇)。「ひ

よっとするとこの不安は的中した。

タイラギ漁が解禁となっ

た今日一日、

初日の漁獲量

は例年の五%

にも満たなかつた。漁場

は、諫早湾干拓事業の潮受け堤防の外側。漁場のど真ん中に、堤防建設用に砂を採取している場所がある。

「採砂工事で巻き上げたヘドロが原因」「国は原因不明という一方、採砂は関係ないという。矛盾じゃないか」「工事を中止せよ」。

諫早湾干拓

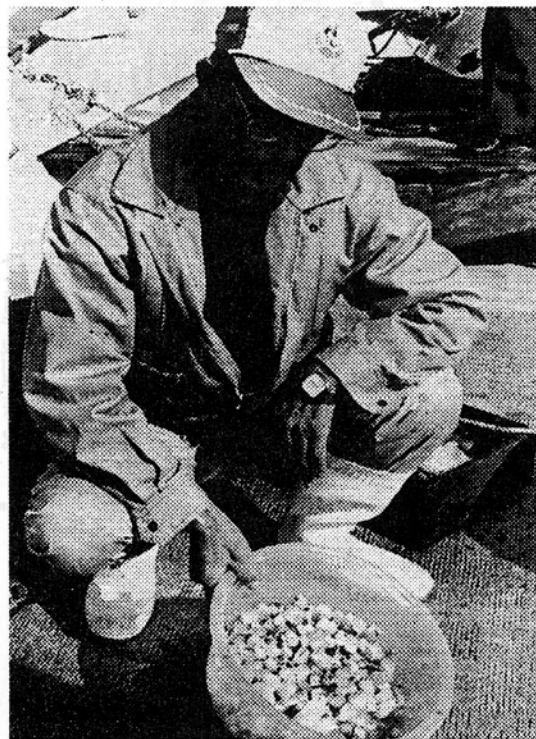
タイラギ大量死 問い直される環境

干拓工事に、漁民が疑いの目を向け始めた。

が、九州農政局諫早湾干拓事務所は「砂は五月から九月にかけて、二万平方メートルだけ。仮に漁場が二百センチあり、ヘドロが平均三十センチ積もった計算として、その総量は六十万立方メートル」と反論する。

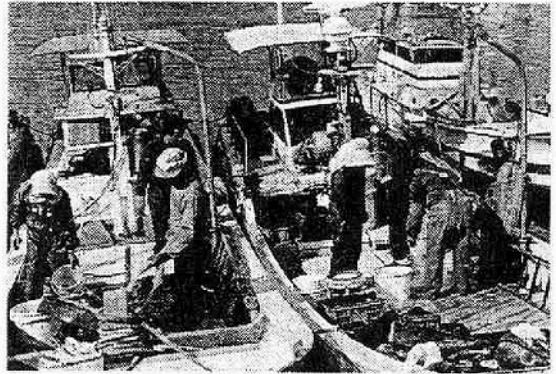
疑問もある。漁民が主張するように、一時工事を中止してみてもどうか。

諫早湾にソ連や東南アジアなどから越冬のため飛来する鳥は、ツクシガモやダイシャクシギをはじめ、その数百七十種余。国内の干潟では、最大の採餌(さいじ)場とされている。



大量死で漁獲が激減した特産のタイラギ
＝北高来郡小長井町の小長井漁港で

2年続きの不漁



予測通りの不漁に荷揚げの漁民もがっかりした表情
＝北高小長井港＝

タイラギ漁解禁

有明海 原因は諫早湾干拓？

【諫早】資源調査で記録

的な不漁の見通しが出ていた有明海のタイラギ（二枚貝）漁が一日解禁されたが、初日の結果は予測通りの不漁に終わった。資源保護していたポイントが今年の漁場になっていただけに「ひよっとして」との漁民のわずかな期待も空振りし二年続きの最悪の不漁に沈痛な表情。一帯で続く諫早湾干拓事業との因果関係が再燃

しそつ。

タイラギ漁民でつくる「新泉水海潜水器組合」（合中勝則組合長、九十一人）によると、この日は県の操業許可を受けた八十三隻のうち約七十隻が出漁した。操業時間は今年不漁が予測されたため、午前九時―正午と二時間延長し異例の三時間にした。その結果、一隻当たり平均採取量は約六キロと極端に不漁だった昨

年並み。例年と比較すると五分の一から六分の一。

漁民が期待していたのは二年前から禁漁区にしていた小長井町沖合の通称「竹の崎」漁場。しかし、出漁した小長井町小川原浦名の田実里志さん（三〇）、志朗さん（三〇）親子によると「ヘドロが積もり死に貝が多く漁にならなかった」。

解禁を前に県が十月八日、漁民に委託して実施した資源調査で不漁が予想された。また、九州農政局諫早湾干拓事務所が十一月十八、十九日行った調査で、漁民らに非公式に示した結果でも昨年より個体数が三分の二に減少していた。

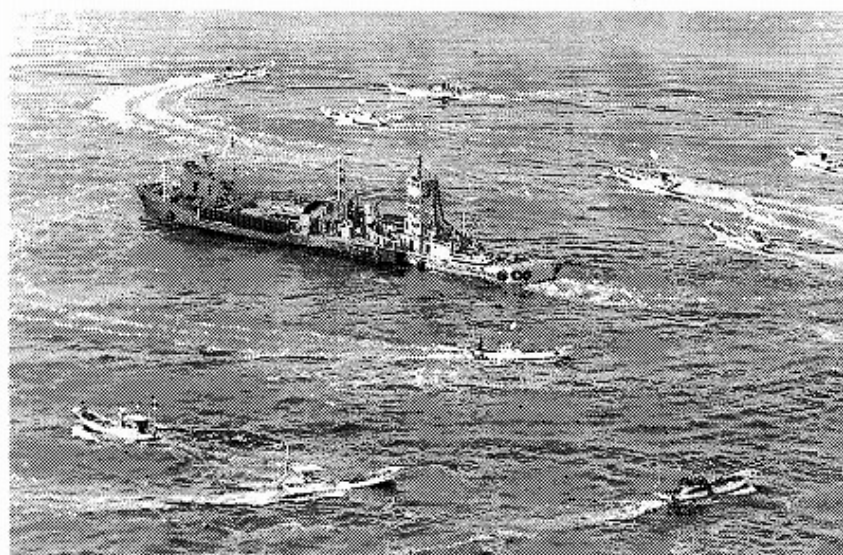
合中組合長は「原因は干拓工事しか考えられない。二、三日、操業して対応を検討したい」と原因究明に乗り出すことを示唆。同事務所は「この日の事実確認をしていないのでコメントできないが、工事が大きな影響を与えているとは考えられない」としている。

抗議頂点 海上デモ

諫早湾干拓工事で小長井町漁協青年部会

漁船24隻、運搬船困む

「三者会談」を申し入れ



砂運搬船を取り巻いて抗議する漁船
＝小長井町沖の諫早湾で、本社ヘリから

諫早湾の干拓工事に反対している北高来郡小長井町の小長井町漁協青年部会(山崎正人部長、三十六人)は二十一日午前、漁船

二十四隻を湾の入り口に出して、湾内の工事現場に向かう砂運搬船三隻の航行に抗議し、海上デモをした。抗議行動は二十一日に続いて三日。漁民はその後、九州農政局諫早湾干拓事務所を訪れ、工事を受け入れ、湾内上部団体の新泉水海四漁協連合会をまじえた三者会談を設定するよう申し入れた。同青年部会の漁民は午前

七時すぎ、漁船が小長井港を出港し、湾内にいた砂運搬船に向かって、湾内に入らぬようハンドマイクで訴えた。砂運搬船はそのまま湾内に入ったが、漁民は二十一日のような阻止行動はせず、海上デモに移った。三池海上保安部の巡視艇一隻が警戒に当たった。同湾は特産のタイラギ漁が昨シーズンに続いて不漁

工事中断、県に要請 市民団体

干拓保護を訴える市民団体、日本湿地ネットワーク(山下弘文代表)は二十二日、タイラギなど諫早湾の水産生物が激減した原因が解明されるまで、九州農政局に工事を中断するよう申し入れることを、県に要請した。さらに、他団体と共同で、干拓事業に関する公開質問も、二月十三日まで回答するよう求めた。

公開質問は、同ネットワークと、環境保護団体の地球の友日本支部、日本野鳥の会長崎支部との共同でされた。九州農政局諫早湾干拓事務所による工事影響調査の結果を公表すること

や、干拓地の利用計画の見直しなど十四項目にわたっている。山下代表は「早急の原因を究明しなければ、有明海沿岸の漁民が、干拓事業に反対して総決起する。その前に、県としては誠意ある対応をしてほしい」と話した。

同ネットワークは、タイラギの不漁は干拓工事によるもので、その影響は、佐賀県でも漁獲の減少を招い

で、同青年部会は九州農政局諫早湾干拓事務所などに、対して、不漁原因の解明、生活資金の融資などを求めている。

同干拓事務所の田中興基所長は「工事の進め方については、権者会と合意している。青年部会に伝わっていない」とすれば、残念だ」と述べ、三者会談の設定に努力することを伝えた。

タイラギに 黒斑の被害

諫早湾

諫早湾内漁場の生物や海底の状態を調査し、水産振興に役立てるのを目的として諫早湾干拓事務所が設置した諫早湾漁場調査委員会が十六日、諫早市内のホテルで開かれた。秦章男委員長(元県水産部長)によると、湾内のタイラギに多毛類が寄生したために発生する黒斑(こくはん)が広がり、かなりの被害が出ていることがわかったという。

昨年六月に設置されてから三回目の委員会。この日は九三年度の調査結果の検討と九四年度の調査計画を討議した。

諫早湾干拓事務所の調査では、湾内漁場の二十四地点で採取したタイラギ七十八個のうち、生きている貝の七一%、死んだ貝の八〇%に黒斑が見られた。

多毛類は、タイラギのからを破って中に入り込み、貝を殺すとみられているが、その生態はまだはっきりしない、という。同委員会では、多毛類もタイラギ漁獲減の一因ではないかともみて、さらに調査することになっている。

秦委員長は「タイラギ漁は定期的に豊漁、不漁を繰り返してきた。不漁の原因を突き止めるには、かなり長期間の継続調査が必要だろう」といっている。

1994年11月--



諫 早 湾

調査操業で成貝1個だけ

シヨツク2年連続

新泉水海 潜水器組合 29日の総会で決定

【諫早】諫早湾のタイラギ漁が十二月一日からの解禁を前に、事実上休漁となる。漁業者らの事前の資源調査操業で稚貝は見つかったものの、成貝は一個しか見つからず、漁がでない状態。同湾でタイラギ漁をする新泉水海潜水器組合(台中勝則組合長、八十九人)は二十九日に総会を開き今期の漁中止を正式に決めるが、昨年に続く休漁に頭を抱えている。

県漁連によると、調査操業調査地点で十五ヶ所を超える。整規則では、資源保護のため十五ヶ所以下のタイラギは採ることができないため、今期の漁はできない。二十四の四ヶ所見つかった。県漁業調査事実上、今期の漁はできない。

諫早湾のタイラギ漁は平成四年に千二百十八トンの漁獲量で、前年の約三分の一に減った。昨年も調査操業で成貝が八個しか見つからず、漁を初めて中止した。二年続きの休漁について、台中組合長は「みんな台風などの影響が考えられるが、原因は特定できない」としている。

県漁連などによると、この時の稚貝が順調に成長しても、来年のシーズンの時点で貝柱がまだ小さくて商品価値は低いという。そのため、あと二年ほど休漁して成長を見る必要があるとの見方も出ている。

タイラギ不漁の原因について、漁民は諫早湾干拓事業による影響を指摘しているが、九州農政局諫早湾干拓事務所は「タイラギの周期的増減や平成三年九月の台風などの影響が考えられるが、原因は特定できない」としている。

「タイラギ不漁は 工事の影響」

諫早事務所所長が発言

「原因不明」の見解に一石

【諫早】九州農政局諫早湾干拓事務所(諫早市西里町、立花所長)が先月、女性を対象に諫早湾地域の将来について座談会を諫早市内で開いた際、立花所長が「タイラギ(二枚貝)不漁は干拓工事の影響」と発言していたことが、出席者の証言から十六日分かった。所長はこれまで「タイラギ不漁の原因ははっきりしない」と発言していただけに、彼を驚かせた。

座談会は先月二十日、なんとかしたい」と発言し、同干拓事務所などが発行する広報紙「いざかん」に掲載する目的で開いた。テーマは「女性が語る諫早湾地域の未来について」。諫早市や北高地区の農業や漁業、商業、行政、議会などにかかわる女性十四人が選ばれて参加した。

関係者の話を総合すると、座談会に入る直前に諫早湾のタイラギ不漁と干拓工事の話となり、所長が「タイラギ不漁は干拓工事の影響。そのために漁業補償をしている。追加補償をすれば、漁民が不漁を認める発言をす

だまっていけない。別の形で、はしやべった記憶がない。漁業補償の話はしたが、工事の影響を認める発言をす

たという。諫早湾でタイラギ漁をする新泉海水産水産組合が員の減少など、三年連続の休漁を十九日に決めた。新聞などで報道された後だけに、所長の発言を聞いた女性たちは「干拓工事の影響だっ

たのか」とショックを受け、憶に残っている「あつさり」と工事の影響を認めたので「びっくわした」などと話している。

この日の発言に対し所長は「タイラギ不漁の原因を干拓工事の影響と指摘してきた日本漁地や、トワークの山下弘文事務所代表は「有明海の干拓のタイラギ不漁は諫早湾を除いて豊漁

り、つい本音を言ったのだらう。工事の影響評価をせざるを得ない」としている。

諫早湾干拓事業をめぐっては、県が昭和十一年に湾内十二漁協と総額二百四十三億五千万円の漁業補償協定を、湾外十一漁協と総額十二億一千四百万円の漁業補償協定を結んでいる。

それによると、同湾口の小長井町側と瑞穂町側の計八カ所で採捕したが、死んでいた貝のほとんどが小長井町側で、生きた貝も瑞穂町側よりはるかに少なかった。小長井町漁民の「タイラギの成育が芳しくない」との主張を裏付けるような結果だった。

この日の会合では、同湾でタイラギ漁をする新泉海水産水産組合(新高橋組合)と同委員会が、二月中旬と三月初旬に同湾で合同実施したタイラギの採捕調査の結果も報告された。

2年連続発見できず

諫早湾漁場調査委
漁場造成など県に要望へ

タイラギ稚貝

それによると、同湾口の小長井町側と瑞穂町側の計八カ所で採捕したが、死んでいた貝のほとんどが小長井町側で、生きた貝も瑞穂町側よりはるかに少なかった。小長井町漁民の「タイラギの成育が芳しくない」との主張を裏付けるような結果だった。

こうしたことから委員会としてはタイラギ成育のための漁場造成や稚苗生産・放流などの水産振興策を、県などに早急に要望することにした。漁場造成としては海底を砂地で覆うなど成育に適した環境づくりが考えられるが、具体策は未定。会合では、七年度の調査報告(二二ページ)で、調査箇所すべてでタイラギの稚貝(三センチ以下)が海底で生

【諫早】諫早湾のタイラギ(二枚貝)激減の原因解明のため、九州農政局諫早湾干拓事務所などでつくる諫早湾漁場調査委員会(委員長、農林部長)は十五日、諫早市内で開き、タイラギ成育のための漁場造成など漁民に配慮した水産振興策を県など行政に要望することを決めた。

タイラギ4年連続休漁が

試験操業 水揚げわずか

諫早湾

北高来郡小長井町などの沖合の諫早湾で水揚げされる高級な二枚貝のタイラギ漁が、この冬も休漁になる恐れが出てきた。湾沿いの漁業者でつくる「新泉海水潜水器組合」(新泉隆喜組合長、七十六人)が試験操業と貝の生育調査をした結果、水揚げがほとんどなかった。正式には二十一日の総会で決めるが、四年連続で休漁になる可能性が強くなっている。

同組合によると、試験操業は今年七月にあり、漁場の十五地点を選び、それぞれ海底に五分間潜って貝を探した。その結果、殻長十七センチが二枚、四、五センチの稚貝が十九枚ほど水揚げされただけだったという。

タイラギ漁は、県知事の許可が必要で新泉海水潜水器組合が十一月の漁解禁前に試験操業をしているが、新泉組合長によると、今年はこの四年間で最悪のデータになったという。

県海洋漁業課のまとめでは、有明海での水揚げは同県内分だけで一九九〇年に三千七百九十六だったのが、九一年には四百三十二に激減。潜水器組合は九三年から休漁している。

不漁の原因として漁民の一部や干潟保護民団体の間では、九一年秋から本格化した諫早湾干拓事業の潮受け堤防工事で硫化水素を含む海底のヘドロが拡散されたためではないか、との指摘もある。

1997年(平成9年)10月28日 長崎新聞

5年連続休漁に

諫早湾入り口のタイラギ漁

成育確認は1個だけ

【諫早】諫早湾でタイラギ(二枚貝)漁をする新泉海水潜水器組合(石田徳春組合長、組合員七十三人)は二十六日、北高小長井町休漁は五年連続。

【諫早】諫早湾でタイラギ(二枚貝)漁をする新泉海水潜水器組合(石田徳春組合長、組合員七十三人)は二十六日、北高小長井町休漁は五年連続。

【諫早】諫早湾でタイラギ(二枚貝)漁をする新泉海水潜水器組合(石田徳春組合長、組合員七十三人)は二十六日、北高小長井町休漁は五年連続。

1997年(平成9年)3月15日 長崎新聞

諫早湾漁民

九州農政局に救済要望

「タイラギ激減 4年連続休漁」

【諫早】諫早湾でタイラギ(二枚貝)漁をする新泉海水潜水器組合(新泉隆喜組合長、七十六人)は十三日、九州農政局(熊本)に対し、タイラギ激減で四年連続休漁となっている事態の救済を要望した。タイラギ休漁問題で同組合が同農政局に直接出向いたのは初めて。

同組合はタイラギの激減からの資材船の航行などで成育不良を理由に、平成漁場が荒廃、タイラギが激減約五十人が訪れた。対応として五年から同湾でのタイラギ漁を減らし、これに代る村松雄介同農政局建設部長は「経済的な救済は干拓事業での雇用で対応している。金銭的な補償には応じられない。漁業振興には長期的な影響や、工事に伴う海外」としている。

同組合は「タイラギの激減の理由として、干拓事業の潮受け堤防工事による硫化水素の拡散が原因ではないか」と主張しているが、農政局側は「タイラギの生育状況を確認しているが、休漁の理由が不明である」としている。

新泉組合長は「タイラギの激減の理由がわからない。休漁の理由がわからない」としている。

設障で、諫早湾干拓事業の潮止め工事を進めることへの抗議でもあると述べた。

諫早自然保護協会が干拓見直し請願交付書を送付し、農政局に要望した。

降も二、三年続くとみられている。

総会では全会一致で休漁を決定。同組合は「タイラギ資源の枯渇は、諫早湾干拓事業に伴う漁場の砂の採取が原因としか考えられない。工事が終わらないと漁の再開は無理かもしれない。荒廃した漁場環境の原状回復を求めたい」と話している。

諫早湾口付近の有明海

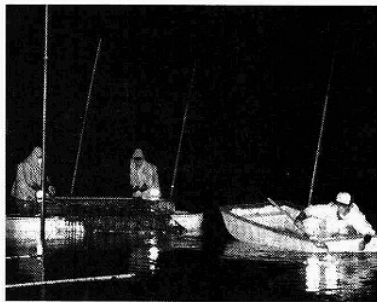
ノリ生育不良 収穫断念

佐賀・大浦漁協

海中の栄養塩不足

大浦漁協の今期のノリ養の収穫は、一戸当たり約一トンと、前年より約半減した。原因は、海中の栄養塩不足による生育不良と見られる。佐賀県大浦漁協によると、今年度のノリ養の収穫は、一戸当たり約一トンと、前年より約半減した。原因は、海中の栄養塩不足による生育不良と見られる。佐賀県大浦漁協によると、今年度のノリ養の収穫は、一戸当たり約一トンと、前年より約半減した。原因は、海中の栄養塩不足による生育不良と見られる。

堤防との関連調査検討



大浦漁協によると、今年度のノリ養の収穫は、一戸当たり約一トンと、前年より約半減した。原因は、海中の栄養塩不足による生育不良と見られる。佐賀県大浦漁協によると、今年度のノリ養の収穫は、一戸当たり約一トンと、前年より約半減した。原因は、海中の栄養塩不足による生育不良と見られる。

大浦漁協によると、今年度のノリ養の収穫は、一戸当たり約一トンと、前年より約半減した。原因は、海中の栄養塩不足による生育不良と見られる。佐賀県大浦漁協によると、今年度のノリ養の収穫は、一戸当たり約一トンと、前年より約半減した。原因は、海中の栄養塩不足による生育不良と見られる。



大浦漁協によると、今年度のノリ養の収穫は、一戸当たり約一トンと、前年より約半減した。原因は、海中の栄養塩不足による生育不良と見られる。佐賀県大浦漁協によると、今年度のノリ養の収穫は、一戸当たり約一トンと、前年より約半減した。原因は、海中の栄養塩不足による生育不良と見られる。

大浦漁協によると、今年度のノリ養の収穫は、一戸当たり約一トンと、前年より約半減した。原因は、海中の栄養塩不足による生育不良と見られる。佐賀県大浦漁協によると、今年度のノリ養の収穫は、一戸当たり約一トンと、前年より約半減した。原因は、海中の栄養塩不足による生育不良と見られる。

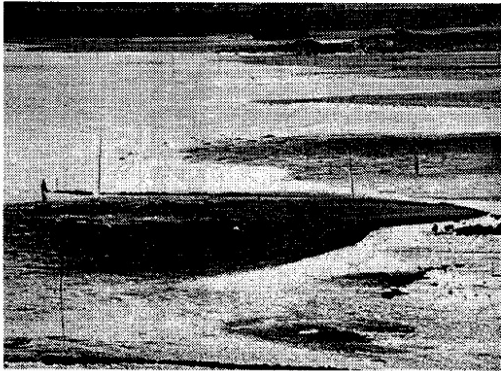
諫早湾

アサリ貝が大量死

佐賀近くまで 赤潮原因か

国の干拓事業が進む長崎県諫早湾入り口の小長井町沖合で、八月初めから中旬にかけてアサリ貝が大量に死んだことが同県の調べで二十五日、明らかになった。小長井町漁協組合員らが養殖しており、被害は推計で一億円近いとも言われている。県漁政課によると、アサリ貝大量死は同町漁協から今年五月に連絡があつて分かった。漁協事務所がある小川原浦名付近を中心にした佐賀県境近くまでの養殖場で被害が広がっており、二十日ごろまで続いた。諫早湾の湾口では、七月下旬に赤潮が発生して八月初めまで消えなかった。県の調査では、スズキやボラなどの魚が大量に死ぬ被害が出た。「シャットネラアンティカ」という緑色べん毛藻類のプランクトンの異常繁殖だった。同県では当初「貝に被害を及ぼすプランクトンではない」との見方をしていた。県漁政課では「干拓事業の影響かは分からない」と言っている。一方、小長井町漁協の新宮隆喜組合長は「以前は赤潮が発生しても短期間で消えていた。調整池の水質浄化や放流の仕方を工夫してほしい」と言っている。

が出た。「シャットネラアンティカ」という緑色べん毛藻類のプランクトンの異常繁殖だった。同県では当初「貝に被害を及ぼすプランクトンではない」との見方をしていた。県漁政課では「干拓事業の影響かは分からない」と言っている。一方、小長井町漁協の新宮隆喜組合長は「以前は赤潮が発生しても短期間で消えていた。調整池の水質浄化や放流の仕方を工夫してほしい」と言っている。



養殖アサリ貝の大量死で経営悪化が懸念される
—北高小長井町の地先
養殖場

諫早湾口

養殖アサリ大量死

最大規模の赤潮原因か

国営諫早湾干拓事業が進む諫早湾口の北高小長井町沖合で、養殖のアサリ貝が今月初旬から中旬にかけて大量死し、同町の養殖漁業者約百戸に被害が出ていることが二十六日、県の調べで分かった。県は赤潮の発生による酸欠状態が原因とみている。赤潮は一九八九

年の観測以来、県内で最大規模だったという。県漁政課によると赤潮は七月中旬に発生し、小長井町沖合の養殖場を中心に被害を及ぼした。赤潮は島原沖から熊本県側まで広がり今月上旬に消滅した。シャットネラ・アンティカというプランクトンの異常繁殖が原因で、シャットネラは魚類に大きな被害を及ぼすとされる。今回初めてボラやスズキなど天然魚の大量死も確認された。シャットネラによる赤潮は八九年以降、有明海や橘湾で度々発生しているが、他のプランクトンによる赤潮を含めても今回は県内で最大規模。シャットネラの個体数は、これまで海水一リットル中約二万個が最高だったが、今回は最大約五万個を検出した。

同課は「干拓事業の影響かどうかは分からない」と話している。

言外に諫早の影響

〇一方、北高小長井町漁協の新宮隆喜組合長は「赤潮の長期滞留がなぜ起きたのか原因が不明」という点から今後への不安をにじませた。

同漁協によると今月五日、同町の海岸線で養殖しているアサリ貝が死んでいるのが分かり県水産部へ連絡。その後、町内ほとんどの養殖場で大量に死んでいることが判明した。県が調査している原因は分かっていないという。

新宮組合長は「これまでの赤潮は二、三日間の発生でなくなったが、今回は二十日間くらい滞留していた。昨年の湾締め切り後、大きいアサリ貝が死ぬことも起きている」と話し、アサリ貝の養殖が諫早湾干拓事業の影響を受けていることを言外ににじませた。

(諫早)

©長崎新聞 1998年(平成10年)10月27日

タイラギ漁

今季も休漁決定

諫早影響調査 結論要請へ

新泉水海潜水器組合

【諫早】諫早湾でタイラギ(一枚貝)漁をしながら、成育不良で五年連続して休漁に陥っている新泉水海潜水器組合(石田徳春組合長、五十五人)は二十六日まで、今季も休漁することを決め休漁を余儀なくされている。タイラギ漁は国営諫早湾干拓事業の潮受け堤防外側に当たる同湾入り口が漁場に当るが、一九九三年以降、タイラギが成育していなかった。同組合は休漁のほか、上部組織ともいえる小長井町、瑞穂町、土黒、神代の四漁協に対し、同事業の影響調査をしている県や学者らで構成する同湾漁場調査委員会へ調査の結論を求めるよう要請することを決めた。

同組合は「タイラギの成育が悪いのは諫早湾干拓事業に伴う漁場の砂採取や潮流、水質の変化といったことが原因と考えられる」と話している。

1998年(平成10年)10月26日 西日本新聞

諫早湾

タイラギ漁休漁

6年連続組合「干拓の影響」

長崎県・諫早湾で一枚貝のタイラギを獲って採る漁業者でつくる新泉水海潜水器組合(石田徳春組合長、五十五人)は二十五日、同県瑞穂町で通常総会を開き、「タイラギがほとんど成育していない」として、十一月一日解禁となる今季の操業を行わないことを決めた。同組合の休漁は六年連続。組合員らは「国の諫早湾干拓事業の潮受け堤防工事の影響で、魚場にヘド

ロがたいたため」とも決めた。反発しているが、九州農政局や長崎県は原因を特定し、防工事本格化した翌年の一九九一年と九二年に記録していない。同組合は今月十三日、潮受け堤防外の十九カ所でタイラギの成育調査を実施。確認できたのは生貝三個と死貝一個だけだった。総会では、干拓事業の同湾への影響調査をしている県や学者らで構成する同湾漁場調査委員会に対して、不漁原因の早急な結論を求

的な不漁に陥り、九三年以降は毎年休漁を強いられるきた。組合員もこの一年間で十八人減るなど、ピーク時の約半分となっている。

小長井沖に大量の赤潮

「干拓で環境変化」

諫早灣

【諒証】國營諒証澤田拓事業が追越諒証河口の北高小井町沖合に赤濁が大量発生していることが十日、分かった。今夏には赤濁の大量発生が原因とられる養魚サリ貝の大量死も起きており、同町漁協は「潮干堤防排水門から出される汚濁水が原因」として警戒を強めている。

同日魚類にとり、赤潮は三月二十五日に発生。三十日には高来町地先へ湧き出た。魚類の大量死は今のところ確認されていないが、小長井町の沿岸で漁業が九月末からアサリ貝の稚貝を放流しており赤潮の影響が心配されている。県水産部によると、今回の赤潮は「ヨロカサ・シボニカ」というプランクトンの異常繁殖が原因とみられており、今夏の赤潮の原因シボニカ・アンテナイカというプランクトンとは異なるという。一、二日だけの個体は今のは二千個、これに対し今夏のシボニカ・アンテナイカは最大五万個。県総合水産試験場は「個体数がこれ以上増えなければアサリ貝が腹欠状態、死ぬようなことはない」とこの見方を示している。

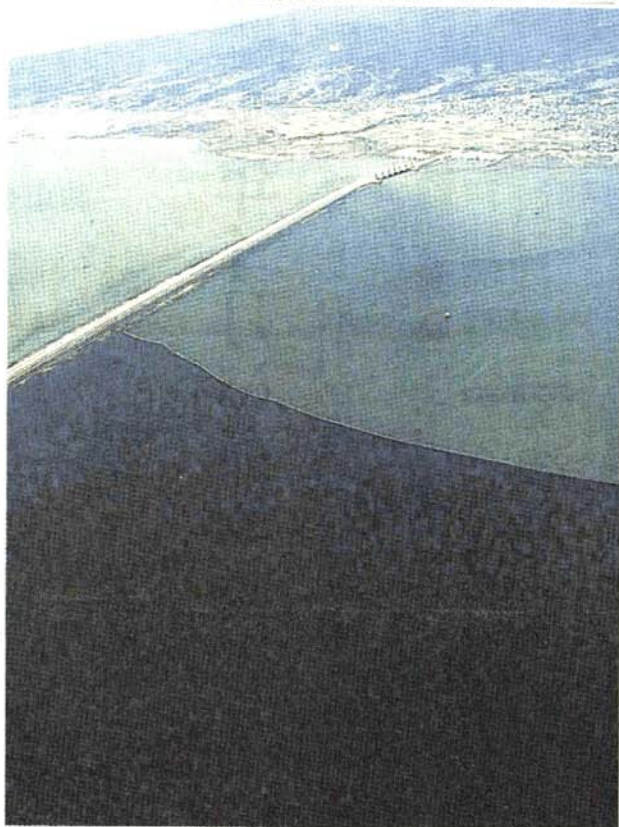
一方、九州農政局諺早湾干拓事務所と県水産部の十一日、排水門から調整池の水が溢散する状況で把握するため海上調査を実施する予定。同干拓事務所は調査にあらずみで水の高さや水の質を把握するためにも、赤潮の発生との関連を調べたのではないとしている。同日の漁業者は「干潮時に排水門から調整池の水が出る。いったん水は明後日に広がるよ」とは潮時に広がるよと、小長井町に押し戻されており、調整池の水が滞留

している。潮流も潮受け堤防ができたことから変わってしまっている。この時期に赤潮の発生はこれまでなかった。干拓事業の影響で環境が変わったせいとしか考えられない。原因をはっきりさせてほしい」と強い口調で話している。

諫早湾 大量の赤潮

潮受け堤防
外側に発生

国の土拓事業が進む長崎 外側一帯で、赤潮が大量に一日、分かった。付近一帯で井町漁協関係者は「堤防内奥・諫早湾の潮受け堤防の発生しているところが三十一アサリ養殖を営む同奥小良の水が窒素やリンの増加で



赤潮で変色した海面（手前）と北部排水門（奥）からの排水で色分けされた諫早湾
＝31日午前11時半すぎ、本社ヘリから

井田漁協関係者は「堤防内の水が窒素やリンの増加で富栄養化し、海へ排出されているためではないか」と警戒し、アサリへの影響を懸念している。

生は過去数回にわたるが、その結果、
時局の発生は極めて短期の間に、
同国に侵襲せらるゝと、本國は「
四月五日、五、六、兩度、」
提督の北部軍艦（同高）
並に聯合（付）を発生し、
次第に清沿に北進し、狀
ににかり、我では結果
獲得まで長約八十
にわたる。

三十一日、由 吉から
讀海を見せ、目下亦
華は長約（一）幅約
にわたり、兩度、提督
の側の海面を覆
る。提督の緑色の海
が浮かび上り、赤色
の水を載いたる、
異水層部にある、今
の潮は「プロボカサ・
ジャボニカ」のう

トンの異常増殖が原因とみられ「地域によっては酸欠による魚介類被害が予測される」という。

司町漁協によると、今夏今回と異なる種類のブラントンが大量発生しており、漁業者らは「堤防内の水質を改善するか、排水方法を変えるかしてほしい」

と語られてゐる。

九州農政局諫早湾干拓事務所は「原因が潮受け堤防から排出される水とは思いたくないが、現時点では、因果関係はあるともないとも言えない」と話している。

タイラギ7年連続休漁

諫早湾、成育不良理由に

新泉水海潜水器組合

【諫早】諫早湾でタイラギ(二枚貝)漁を営む漁民らでつくる新泉水海潜水器組合(松永秀則組合長、五十三人)は七日、北高小長井町で通常総会を開き、タイラギの成育不良を理由に今季も休漁することを決めた。休漁は一九九三年から七年連続。

同組合によると、昨年十月に小長井町沖で実施した調査では、長さ五・七センチの貝を最高十八個確認した。水目視で最高約八十のタイラギにとどまった。島原半島沖ほど目視確認できないと出ラギの個体を確認した。し

かし、今年十月の同じ場所の調査では、長さ五・七センチの貝を最高十八個確認した。分間の潜水で三百―五百個ほど目視確認できないと出ラギの個体を確認した。し

成育状況からみて操業は無理などと組合員らに説明した。

タイラギ漁は十二月から三月がシーズン。国営諫早湾干拓事業の潮受け堤防外側

に当たる同湾入り口が漁場だが、九三年以降タイラギが激減。かつて百人を超えた漁民は現在、半減している。一方、県は昨年から特別対策事業で漁場に砂を入れて環境整備を続けている。

同組合長は「成育が悪いのは干拓事業の影響で生態系が変わったことが原因と考えられる」と指摘。九州農政局諫早湾干拓事務所では「成育不良については学者や国、県の関係者でつく

る諫早湾漁場調査委で原因を調べているが、結論は出ていない」としている。

諫早湾

タイラギ7年連続休漁

新泉水海潜水器組合「採れる貝がない」

小長井、瑞穂町の漁師でつくる新泉水海潜水器組合(松永秀則組合長、五十三人)は七日、「タイラギがいない」などとして、今年度も諫早湾でのタイラギ漁の休漁を決めた。同湾でのタイラギ漁は七年連続の休漁となる。

同組合が先月十二日に小長井町の試験漁場に潜ったところ、五センチ程度の稚貝は確認されたものの、商品になるような二十―二十五センチの成貝は確認できなかったという。同じ場所でも一年前に行われた試験潜水では十センチ程度の稚貝が確認され、商品になるような二十―二十五センチの成貝は確認できなかったという。松永組合長は「採れる貝がない。潜っても採算がとれない」と話している。

タイラギ不漁の原因については、海底の砂を採取したところ、諫早湾干拓事業の影響とする声が組合員の間などからは強い。同組合は休漁に対する補償を行政側に求めることは考えていないというが、漁場に砂を戻すことなどの漁業振興策を要望したいとしている。



地元漁協のダイバーが諫早湾に潜ってタイラギの稚貝を採取した(今年2月)

ブロック 最前線

KYUSHU

諫早湾口部の長崎・小長井町

養殖アサリ 赤潮で、全滅、

国営干拓事業の進む長崎県・諫早湾に面した同県小長井町で八月上旬、赤潮が発生し、養殖アサリが大量に死滅していたことが十七日、分かった。同県漁政課などの調べでは、被害額は約二億五千万円。赤潮は今夏の高温小雨による有毒プランクトンの大量発生が、因とみられるが、漁業関係者から干拓事業の影響を指摘する声も出ている。

漁業関係者 「干拓が影響」

同課によると、赤潮はシャットネラ・アンティに熊本県の有明海沖で発生。四日に諫早湾口部方面に移動し、長崎県小長井町や有明町沖に滞留した。

同課には十一日にアサリ被害の報告があった。同課が同日調査したところ、通常観測されない有害種の植物性プランクトンの一種、な被害は初めて。(一九九八年)と、赤潮が

九七年の諫早湾干拓発生しやすい環境を指した。これに対して、諫早湾干拓事務所は「堤防閉め切り前後の水質調査で、明確な差は出ていない。赤潮は、有明海の広範囲で発生しており、干拓事業との因果関係は分からない」として

九七年の諫早湾干拓発生しやすい環境を指した。これに対して、諫早湾干拓事務所は「堤防閉め切り前後の水質調査で、明確な差は出ていない。赤潮は、有明海の広範囲で発生しており、干拓事業との因果関係は分からない」として

九七年の諫早湾干拓発生しやすい環境を指した。これに対して、諫早湾干拓事務所は「堤防閉め切り前後の水質調査で、明確な差は出ていない。赤潮は、有明海の広範囲で発生しており、干拓事業との因果関係は分からない」として

(35) 九州版 西日本新聞 2000年(平成12年)12月9日

8年連続の休漁

諫早湾のタイラギ

干拓の影響 来春まとめ

長崎県小長井、瑞穂両町の漁業者でつくる新泉水海潜水器組合(松永秀則組合長、五十人は八日までに、今冬の諫早湾のタイラギ漁を休漁とすることを決めた。休漁は一九九三年から八年連続。「不漁の原因は諫早湾

干拓事業の影響」とする同組合側の要請を受けて、九州農政局諫早湾干拓事務所が設けた漁場調査委員会は来年三月をめぐりに不漁の原因を究明、結果をまとめる。

同組合によると、十一月二十日の成育調査では、五ヶ月前後の稚魚が見つかっただけで、商品価値のある二十一二十五のタイラギは確認できなかった。このためシーズンである十二月三月の休漁を決めた。不漁の原因については、九三年に漁場調査委員会が発足、継続調査をしている。松永組合長は「調査委



過去最大規模の赤潮が発生した諫早湾
11日午後一時半、小長井町沖(本社ヘリから)

諫早湾に赤潮

排水門の排水も一因？
小田達也・長崎大教授
(海洋生物学の話) 海水
中の富栄養化と温度、塩
分などが関係している。
排水門からの排水も一つ
の原因ではないか。プラ
ンクトンは消滅した後、
海底に沈んで種となる。
潮流が弱いとその地域で
増殖し、再び赤潮となる。

県南水産業普及指導セ
ンター(島原市)や小長
井町漁協によると、赤潮
では海面が一面赤茶色に
なった。検出されたのは
植物プランクトンのクリ
プト藻で毒性はないが、
海水一リットル当たり最大四
万八千個を確認した。佐
賀県太良町でも同様の
赤潮が発生している。

諫早湾では、潮受け堤
防での湾奥部閉め切り以
降、赤潮が急増。漁業者
の間では「潮受け堤防が
屋を訪れ、「地元の仕事

関係者は中断で収入が途
絶え、生活に困っている」
として、工事の早期再開を
求める文書を提出した。
調整池水質保全策
話し合いは平行線

九州農政局は九日、長
崎県諫早湾の四漁協組合
と小長井町漁協に対し、
計画の見直しを強く
求めた。

長崎県の諫早湾干拓事業の潮受け堤防から同県島原市沖にかけて、約
四十キロにわたり赤潮が発生していることが九日、分かった。同県によ
ると、今ところ漁業被害の報告はないが、赤潮の発生面積は過去最大規
模という。

過去最大級 潮受け堤防から 島原沖まで40キロ

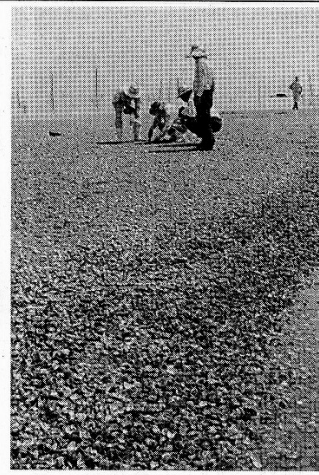
で、潮流が弱まったこと
や、調整池の排水が関係

しているのでは」との声
が出ていた。しかし、九
州農政局諫早湾干拓事務
所は「有明海のほかの場
所でも赤潮が発生してお
り、因果関係は分からな
い」と話している。

同センターが今年確認
した諫早湾での赤潮発生
は三件目。

業の調整池の水質保全策
を説明した。漁協側は福
岡など三県漁連の主張は
通るのに、地元の見解は
どうして反映されなけれ
ばならぬと反発、話し合
いは平行線のままだった。
五日の説明会で小長井
町漁協は、漁場などに影
響が少ないように潮受け
堤防の中央部で排水する
ことなどを改善を求めて
いた。しかし、同局は北部
排水門付近にポンプ基
礎を設置するなどの当初案を
あらためて示したため、
漁協側は「養殖アサリな
どへの被害が懸念され
る。われわれも生活がか
かっている」と主張
を求めた。

長崎新聞 2001年(平成13年)8月18日 土曜日 社会 (24)



【諫早】今月初旬に北発生した養殖アサリの大目、被害額が三千万円を
高小長井町の二部沿岸で、量死で、同町漁協は十七超す見通しを明らかにし
た。被害は養殖十八業者は
どで、このうち同日まで
に十二業者が被害状況を
報告した。へい死量は合
計約百トン、被害額は約二
千八百万円。未報告分を
含めると三千万円を超え
る見込みで、同漁協は取
りまとめを急いでいる。
大量死の発生は、同町
小川原浦名と井崎名地先
の二カ所。同町の養殖場
全域の約五分の一に相当
する。へい死率は高い所

アサリ
大目
被害額
3000万円超

高水温、酸欠など影響か

小長井

で六割弱、低い所で二
割程度。
同町では昨年八月、赤
潮などが原因で養殖場一
帯のアサリが大量死し、
被害額は約二億六千万円
に上った。県によると、
今回の被害と赤潮の関連
は不明で、高水温や酸欠
など複合的要因の可能性
が高いという。

諫早湾干拓とタイラギ不漁

因果関係特定できず

九州農政局

農水省九州農政局は10日、諫早湾干拓事業と高級二枚貝タイラギ不漁の因果関係を調べる諫早湾漁場調査委員会(委員長、秦章男・元長崎県水産部長、13人)を、同県諫早市内のホテルで開き、「干拓と不漁との因果関係は、疑わしいが特定できない」とする調査報告書をまとめた。約9年がかりの調査で原因究明に至らなかったことについて、委員長は「原因をつきつめるデー

タが不十分だった」と説明。タイラギ漁業者からは「納得できない」と不満の声があがった。同委員会は、諫早湾干拓工事が本格化した91年ごろから、潮受け堤防のすぐ外側の長崎県小長井町沖で、タイラギが大量に死滅する現象が続いたため、干拓との因果関係を調べる目的で93年、九州農政局が設置した。報告書では、タイラギの漁獲量はもとより年々の変動が大きいとしながらも、93年以降、9季連続で休漁を余儀なくされている同町沖の現象については、「これまでとは性質を異にする」と指摘。湾内の潮流の分析、水質調査の結果などから原因を考察した。

その結果、海水に溶けている酸素量が減っている貧酸素水の現象が見られたり、海底の泥の粒が細かくなったりして、タイラギが成育しにくくなった可能性があるが、現在の観測機器のレベルや調査体制では原因と断定できるデータが集められなかったとした。委員会は、そのものが約5年開かれなかったことについては、委員長は「湾閉め切り後から不作為で政治的、社会的な動きが大きくなり、原案を詰める国が対応できなくなった」と説明した。

新宮隆喜・小長井町漁協組合長は「この間、何の調査ができたのか。怒りを通る過ぎてあきらめの気持ちだ。組合員は納

得しないだろう」と話した。

農水省事務次官「引き続き説明」

国営諫早湾干拓事業(長崎県)の工事を一部再開したことにより有明海沿岸の漁業者が抗議を続けている問題で、農水省の渡辺好明事務次官は10日の定例会見で「漁業者に対しては説明してきたが残念だ。今回の工事は有明海の漁業に悪い影響を与えないことを説明していく」として、漁業者の理解を得る努力を続ける考えを示した。

抗議行動の中心である福岡県有明海漁連などは「抗議行動の中心である福岡県有明海漁連など事現場に入らうとする大

抗議の中で工事を継続

九州農政局は10日、約11カ月ぶりに再開した国営諫早湾干拓事業(長崎県)の工事を前日に続き同県高来町の小江工区で進めた。同工区の入江口では、反対する有明海沿岸の漁業者ら約50人が工事現場に入らうとする大

型トラックを阻止し、同局職員とのにらみ合いが終日続いた。

同工区の調整池に流れ込む排水路の水門の地盤工事は午前9時ごろから始まった。工事関係者によると、漁業者が盛り込む陸上の入り口を避け、諫早湾の潮受け堤防北側から作業員10人ほどが入ったという。

有明海のクルマエビ

5年前の6分の1に

有明海のクルマエビの不漁が深刻だ。福岡、佐賀、熊本、長崎の沿岸4県の01年の漁獲量は計56トと、5年前の約6分の1に激減した。赤潮や長崎県・諫早湾干拓事業の影響が指摘され、諫早湾口に近い佐賀県太良町の大浦漁協は00年、01年と事実上の休漁状態に追い込まれた。今月後半から本格化する今季の漁を前に、漁民たちの不安は募る。4県は国と共同で原因調査を進めている。

01年の漁獲量

佐賀・大浦漁協 2年続け休漁状態

97年234ト、98年182ト、99年119ト、00年78ト、01年56トと年を追うごとに急速に落ち込んでいる。佐賀県有明水産振興センターによると、00年8月中旬に毒性を持つプランクトンの赤潮が有明海で蔓延した直後から、急にとれなくなったクルマエビがいなくなった。同センターは「好漁場だった大浦町沖は泥が積もって海底がどこか分からない状態」といい、今季の漁も危ぶむ。

4県は、養殖ノリ不作を機に01年4月から始めた有明海総合調査の中で原因究明を目指す。一方で来年は1千万匹規模の稚エビを放流し、漁獲の底上げを図る方針だ。



漁場調査委員会の最終会合終了後、記者会見する
秦章男委員長(右)と九州農政局職員ら
＝諫早市宇都町、ホテルグランドパレス諫早

タイラギ不漁

諫早の影響不明

九州農政局 調査委が報告書

【諫早】国営諫早湾干拓事業とタイラギ(二枚貝)の不漁の因果関係を調べる九州農政局の諫早湾漁場調査委員会(秦章男委員長)は10日、諫早市内で最終会合を開き、調査で得られた変化の範囲では干拓工事の影響は明らかにできなかったと

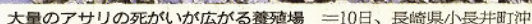
【社会面に関連記事】

調査結果をまとめた。潮止め工事で湾を閉め切った九七年四月以降は専門部会の審議だけ漁業の総合的な振興対策などを求めた。

特定に至らなかった玉虫色の結末に反発を強めている。

調査報告書は▽低酸素水の発生▽海底の泥が粘土状になる細粒化―などが不漁の要因となった可能性を指摘したが、低酸素水を確認した範囲が一部にとどまるなど「核心となる部分を調査結果で明らかにできなかった」と

諫早湾では、潮受け堤防工事の本格化と同時期にタイラギが激減。報告書は「干拓事業が本格化し、諫早湾の海況に影響すると考えられる諸作業が増加した」と指摘。「操業できないまでに資源水準が落ち込んだのはこれまでもとは異質の現象ではないかと考えられる」としたが、干拓事業の影響には踏み込まなかった。



赤潮原因？全滅の漁場も

養殖アサリ大量死

いた。一帯では水中の酸素が欠乏する「低酸素水塊」が発生しており、これも影響している可能性があるという。

かある。う。

小長井町では、一九九

八年と二〇〇〇年にも赤

潮が原因とみられるアサ

りの大量死が発生してお

り、漁業者の一人は「国

の陳早穹干石事業に半う

（九二年の）朝受寸是方

(九) 全の、漸次、境界

後、赤澤の港

重期間が長くなったよ

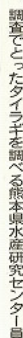
「と話していきな。」

「だ」と話している。

5年ぶりに漁
再開の荒尾市

9割「殻だけ」

タイラギ、今年も大量死



不漁のため休漁が続いて、有明海漁業の二枚貝・タイラギ漁が五年ぶりに今月一日から熊本県荒尾市沖で再開したが、今季も大量の死員が確認されていることが分かった。

同市沖はタイラギの主要な潜水漁場だが、今月一日の解禁を待ちわびて漁を始めた漁業者たちは「今年もためか」と危機感を募らせている。

タイラギの大量死は、タイラギの生息調査を統

ゼンターナが、十日、
漁船を調べた。結果、水
深約五キロの海底に探
つたタイラギ百個のうち
九十個が死んで、生きて
いた十個のうち三個もか
なり弱っており、残りの
中身がやせていた。

一九九八年秋にタイラ
ギ不漁が始まって以降、
み切った。

同ゼンターは漁業の協
力を得て、大量の不漁原
因を生息分布状況を調査し
てきたが、いまの原因
は分かっている。昨年
までは漁獲対象にない、殻
長五センチ以上の成貝が確
認されて、漁を見送り。
今年は少ないながらも生
息を確認された。解禁は遅
くみ切った。

一方、福岡、佐賀県で
い」と話している。

同セシターは漁業との協力を得て、大量死の原因と生息分布状況を調査してきていた。主な原因はかたが、ついでに、昨年までは漁獲対象にない、鰆長五寸以上の成魚が確認されて、鰆を見られ、今年には少ないながらも生息確認された。解禁地のみ切った。

同セシターは十二月には全滅した二〇〇の年 同セシターは十二月には十割しからる年 同セシターは十二月には十割しかる年	同セシターは十二月には十割しかる年 同セシターは十二月には十割しかる年 同セシターは十二月には十割しかる年
---	---

一方、福岡 佐賀県でい

福岡、佐賀沖の有明海

3年ぶりタイラギ漁



3年ぶりに再開された漁で採れた二枚貝「タイラギ」
＝10日午前10時、佐賀県沖の有明海

福岡、佐賀両県沖の有明海で十日、漁獲量が激減している二枚貝「タイラギ」の潜水漁が三年ぶりに再開された。環境異変が指摘される有明海で

のタイラギ漁獲量は一九九九年からほぼゼロ。二三年間は漁の申請自体なかった。タイラギは長さ三十センチ、海底に突き刺すように立つのが特徴。貝柱などを刺し身や焼いて食べる。午前九時、沖合の漁場にひしめき合う約八十隻の漁船から、ヘルメット型の潜水器具を付けた潜水士が一斉に水深約一五メートルの海に入った。貝の入った網が次々ロープ

で引き上げられると、船場所と別の漁場でタイラギ

のタイラギ不漁の原因は、夏場の大量死やエイの被害などが挙げられているが、漁業者の間には、国営諫早湾干拓事業の影響を指摘する声もある。今年には大量死が起こる

ギの成育が確認され、漁業者団体は漁を申請、両県合わせて約百三十隻が許可を受けた。操業許可期間は来年三月三十一日まで。

タイラギ漁、不安な再開

貝柱小さく
量も少なめ



船中では、潜水士が取ったタイラギの殻をむく作業が続いた。10日午前9時30分、佐賀県沖の有明海で

佐賀、福岡両県沖の有明海で十日、二枚貝「タイラギ」の潜水漁が再開された。漁業者の期待に反して貝柱は小さく、量も少なめ。3年前から続く成貝の大量死も原因不明のまま。漁業者は今後の生育に期待する一方で、「いつまで取れるだろうか」と不安な顔も見せた。漁期は年度内だが、成貝がなくなり次第、終わる。

有明海中央部の漁場には約50隻の漁船が出て、午前9時に各船から潜水士が一斉に海へ飛び込んだ。佐賀県太良町の太良孝行さん(57)の船では最初の30分間で、タイラギ約40個が入った袋を3回引き揚げた。貝殻は15センチ。大銀さんは一目見て「大きいけど、身は小さい。冷え込めば太るだろうが……」と不安げだ。佐賀県有明水産振興センターによると、00年以降、6・8月に成貝が大量死。海中の酸素量低下やナルトビエイの食害が指摘されるが、原因は不明だ。

赤潮 養殖アサリ全滅

佐賀・太良町沖 被害額は数億円か

2004年(平成16年)8月15日

佐賀県太良町大浦沖の
有明海で赤潮が発生し、
同町の海岸にある養殖場
(約三万三千平方メートル)の
アサリが、ほぼ全滅状態
になっていることが十四
日、地元漁業者の話で
分かった。

赤潮は同町や同県鹿島
市沖で三日に初観測。同
県有明水産振興センター
(芦刈町)の調べで、毒
性が強い「シャトネラ」
と呼ばれるプランクトン
などであることが判明。
猛暑で水温が例年より二

―三度上昇しており、十
一日には、同町沖で養殖
カキやグチなどが死ぬ被
害も発生、赤潮による被
害が拡大している。

アサリの養殖場は太良
町の牟田尻海岸にあり、
大浦漁協の組合員約百人
が管理。今年は来年二月
からの漁に備えて禁漁に
していたという。十四日
午後の干潮時に大鋸義穂
さん(六十九)ら組合員が腐敗
臭に気付き、現場を調べ
たところ、少なくとも幅

わたってアサリの死がい
が転がっていたという。
大鋸さん一人だけで被
害額は千五百万円として
おり、全体の被害額は、数
億円に上るとみられる。
大鋸さんは「長年、養殖を
やっているが、こんなに
ひどい被害は初めて」と
頭を抱えている。現場の
海岸は長崎県小長井町と
の県境にあり、地元漁民
によると、長崎県沖の有
明海でも赤潮による被害
が出ているという。

養殖のアサリ 赤潮で大量死

佐賀・長崎の有明海

佐賀、長崎県境沖の有
明海で赤潮が発生し、ア
サリ養殖場で貝が大量死
するなどの被害が出てい
る。今のところ、被害が

確認されたのは佐賀県太
良町沖などだけだが、被
害が拡大する恐れもある
として、関係者は危機感
を募らせている。

太良町の養殖場では、
口を開けて死んだアサリ
の殻が、びっしりと干潟
の表面を埋めていた。87

年から養殖を続ける平方
宣清さん(51)は「14日に
腐臭がしたので来てみた
ら、アサリが身をむき出
して死んでいた。赤潮で
半分ぐらい死んだことは
あるが、全滅は初めて
だ」と話した。被害額は
1千万円以上という。

諫早湾タイラギ 13年連続休漁へ

諫早湾で操業する長崎県内の四漁協が九、十の両日、タイラギの成育調査を湾内四十地点で行った。体長一〇センチ以下の稚貝が三地点で計十個しか見つからず、同湾のタイラギ漁業者でつくる新泉水海潜水器組合は「質・量ともに不十分」として、今月末にも総会を開き、一九九三年以降十三年連続の休漁を決める。

四漁協は十月にも砂が多く、タイラギが成育しやすい漁場十二地点を調査。五地点で六十四個が見つかり、いずれも稚貝だった。

同湾のタイラギ漁は、国営諫早湾干拓事業の工事が本格化した九二年ごろから不振が続いている。潜水器組合の松永秀則組合長(五三)は「海底環境が悪すぎる。国の有明海再生策で改善するとは思えない」と話している。



2003年に解禁されたタイラギ漁。同年12月10日、佐賀県太良町の有明海

タイラギ漁3季ぶり再開へ

福岡・佐賀 有明海 生息数、回復確認 漁業者「漁獲量に不安」

福岡、佐賀両県の潜水漁業者は二十四日、佐賀県有明海漁連(佐賀市)で協議会を開き、生息数の減少で禁止していた有明海のタイラギ漁を三季ぶりに再開することを決めた。生息数の回復が確認されたため、十二月月上旬に両県に許可申請を提出する。漁期は来月十五日から来年三月三十一日までとしている。

佐賀県有明水産振興センターが十三日に調査した有明海のタイラギ生息状況によると、二〇〇四一〇五年度には生息が確

認されなかった沿岸五漁場のうち、三漁場でタイラギが確認された。しかし推定貝柱重量は約八割と三年度の約八分の一にとまり、関係者は「漁獲量は数日で終わる可能性もある」としている。

「福岡・佐賀両県有明海潜水器漁業者協議会」の副会長で、大浦漁協(佐賀県太良町)の竹島好道組合長は「漁獲量の確認が手放しでは喜べない。エビに食われたり、立ち枯れ死したりする心配があり、生息数が少ないだけに三季ぶりに海に入れるのは楽しみだが、潜水器具を新たにそろえると出費も少なくない」と不安をのぞかせた。

タイラギ13季連続休漁

諫早湾 調査で成貝見つからず

諫早湾の二枚貝・タイラギについて、湾沿岸のタイラギ漁業者でつくる新泉水海潜水器組合(松永秀則組合長、約四十人)は22日、諫早市小長井町で総会を開き、13季連続で休漁することを決めた。

同組合によると、11月下旬に湾内12か所で生息調査を行ったが、漁獲の対象となる15センチ以上の成貝は一つも見つからなかった。有明海で漁を行う福岡、佐賀両県の漁業者も2季連続の休漁を決めている。総会では、タイラギが死

また、松永組合長らが11月下旬、大村市の漁協と協

だけに三季ぶりに海に入れるのは楽しみだが、潜水器具を新たにそろえると出費も少なくない」と不安をのぞかせた。

有明海で月月中旬から
広域発生している「平成
最大級」の赤潮はさらに
拡大を続けている。佐賀
県の大島町沖から長崎県
の諫早湾にかけて広がり、上空からはしょうゆ
色に濁った帯状の海域を
見ることができた
佐賀県水産課

ランクトン「ジャットウラ」が大量に発生。佐賀県白石町沖では二十四日の調査で細胞数が一ミリの間に一万三千個と、アサリが大量死した二〇〇四年以来の多さだった。

有明海沿岸では死んだ
コノシロやエビが大量に
漂流・漂着しており、同
県は二十七日も調査船を
出し、赤潮の状態に合わ
せ魚介類の被害状況も確
認する。

アサリ大量死

長崎県も確認

有明海の赤潮被害によ

り、長崎県諫早市沖で養

死なせしが大層死するた
どの被害が出てゐる。司

県は二十六日に諫早湾の

十二カ所で調査を実施、

同市小長井町の諫早灣干

招集業の薄受に場防近く
の塞直場で、アナリがま

ば全滅状態となっている

のを確認した。コノシロ

などの魚類も数十口の被

害が出ているところ

の調査を進めるととも

に、漁協と協議しながら

対策に乗り出している。

ア+

アサリの被害深刻

打つ手なく苦悩の漁業者

上旬）平成版大規模な
《銀根水産試験場》の
赤潮が発生し、護国港の
一部地域で養殖アサリが
全滅するなど漁業者の
苦状がとて報告される
毎年のことになっている
赤潮被害。漁業者の理
的・経済的負担は、大
が「発生を食い止める」
てはなく、眼や鰓が刺さ
るのを防ぐ有効な手段
に頭悩ませている。
（長崎県・前田英男
課長室局・阿比留北）

[illegible][illegible]

諫干の影響指摘も根強く

[illegible][illegible]

諫早湾窒息

赤潮直撃 アサリ死滅

諫早湾北岸の長崎県諫早市小長井町で、養殖アサリが死滅する被害が起きている。県総合水産試験場によると、有明海で8月上旬から発生した赤潮の影響で海水の酸素濃度が低下したためとみられる。被害を受けた海域は諫早湾干拓事業で建設された潮受け堤防に近い。「堤防で潮流が弱まり、赤潮の被害も大きくなった」と指摘もある。地元漁業者からは「大災ではなく人災だ」との声が上がっている。

(岡田玄)

堤防で潮流弱まる？ 地元漁師ら「人災だ」

小長井町の海岸線。口を開けたアサリが一面に広がり、腐敗臭が漂う。足を踏み入れると「ザクザク」と貝殻が砕ける。厚さ10センチほどに積み重なっているところもある。地元漁業者は「腐敗臭が徐々に東に移動している。被害はもっと広がるだろう」と見る。

沿岸に赤潮が広がったのは8月上旬。定置網のコノシロは全滅。被害が深刻だったのは沿岸一帯に広がる養殖アサリ。長崎県が8月26日に小長井町沿岸の12カ所を調査したところ、3カ所で全滅し、全体では4割が死んでいたという。

全滅したアサリ。漁師たちは大きなため息をついた。8月31日、諫早市小長井町で



揚げ量は05年度で271ト、水揚げ高は1億500万円。長崎県産の大部分を占めている。小長井町漁協では、組合員98人のほぼ全員がアサリ養殖



を手がけており、漁協の全水揚げ高の6割以上を占める収入源だ。畑のように区画を分け、各漁業者が管理する先進的な養殖方法にも取り組んでいる。

近くの漁師植木清治さん(51)は「補償もなく、どうやって生活していけばいいのか」と嘆く。

小長井町は、潮受け堤防の東側。堤防の内側にある調整池から、淡水を定期的に排出する北部排水門の目の前だ。地元漁業者の話では、例年、夏

場に淡水が排水された後に赤潮が発生し、アサリが死ぬことがあるが、これほどの被害は初めてという。

同漁協理事の松永秀則さん(54)は「この夏は水温が高く赤潮が発生しやすい状態だったのに排水を繰り返したため、被害が大きくなったのでは。しかも堤防が出来てからは潮流が弱くなり、汚れた水が消えてくれなくなっている」と語る。

長崎大学環境科学部の姫野順一教授(環境経済学)は「調整池から排出される汚れた水が海のバランスを崩し、特に排水門近くのアサリ漁場に大きな影響を与えたのではないかと指摘する。

一方、県は干拓事業との関連について、赤潮発生メカニズムが解明されておらず、直接の原因とは断定できないとしている。

アサリ被害3億円

小長井町漁協 生活保障要望へ

諫早市小長井町の沿岸で養殖アサリが大量死している問題で、小長井町漁協(新宮隆喜組、組合員98人)は4日、被害総額が約3億円とする集計結果をまとめた。今後、県や市に生活保障などを要望する。

同漁協幹部によると、これまでに養殖アサリの7割にあたる約120トンのアサリが死滅。被害額は過去最大規模という。被害を受けた海域も拡大。全滅が確認された海域は8月26日の県の調査より、東に1、2キロ広が

っていた。稚魚が死ぬ被害も広がっていることから、来年以降の水揚げにも影響が

出る恐れがある。

同漁協は4日、役員会を開き、対策を検討。組合員から要望の多い生活保障のほか、死んだアサリの撤去、漁場整備などを県や市に要望していくことを決めた。

朝日新聞 2007年(平成19年)10月31日(33) 社会

諫早の力キ 9割死滅

養殖アサリの大規模な死滅が8月に発生した長崎県の諫早湾で、11月1日からの販売を控えた養殖力キの約9割が死滅していることが県と小長井町漁協の調査でわかった。夏の猛暑で海水温が下がる時期が遅れたのが原因とみられる。冬の風物詩の力キ焼き小屋が沿岸に並ぶまであとわず

か、相次ぐ悪化に、漁師たちは困惑している。



「これも死んでいる……」。引き揚げて、殻だけの力キが目立つ。30日前、午前11時頃、長崎県諫早市沖の有明海で、水野義則撮影

アサリに続き…養殖業に打撃

猛暑、水温に影響?

30日、諫早湾を地元の漁師と一緒にボートで10分ほど進んだ。竹で編んだ養殖かだがいとも浮いている。長さ・5メートル、幅・1.5メートルのロープを引き揚げてもらった。泥にまみれた殻の固まりが姿を現した。どれも半開きで腐敗臭がする。「わずか1日で死滅した力キも小さい。出荷できるかどうか。漁師は肩を落とした。県と同漁協によると、死滅した力キが次々に見つかるといったのは9月中旬ごろ。今月18日、湾内のいかだ103基のうち20基を調べたところ、力キの生存率は1割前後だった。5%のいかだもあった。

県総合水産試験場によると、例年の生存率は8割前後。「夏に高温が続き、海水温の低下が遅れたのが原因ではないか」と推測する。11月に完成



する諫早湾干拓事業との関連は「不明」という。ただ、干拓事業で湾奥部を閉め切る潮受け堤防の近くでは8月中旬、赤潮と貧酸素が原因とみられるアサリの大規模な死滅が確認された。養殖組合員は「堤防内部の調整池からの排水も影響しているのでは」と話した。(奥田聖子、加藤勝利)

干拓事業が着工してから漁獲量は低迷し、組合員らは98年から新たな振興策として力キ養殖に取り組んできた。昨年度の水揚げは約173トン、約7千円。アサリと並ぶ収入の柱だ。漁協幹部は「お蔵出し」を前に注文や問い合わせが相次いでいる。今年には組合員が5つに増えた。昨年度は72トン、水揚げは50万8千円。一方、今年から力キ焼き小屋の営業を始めた男性は不安そうだった。「うちのかだはほぼ例年並み。有明海の力キ全体が不振のイメージを持たれないか、心配だ」

タイラギ漁獲 過去最低

今季有明海 佐賀2キロ、福岡も低迷

有明海特産の二枚貝タイラギの今季水揚げ高が、福岡、佐賀両県とも過去最低だったことが三十一日、分かった。漁期は昨年十二月二十日から今年三月末だったが、生息数が極めて少なく、解禁直後の数日で実質的に漁は終わっていた。佐賀県有明海漁協によ

ると、佐賀側は解禁日に漁船九隻で出漁し、貝柱の水揚げ高は一・二九キ、二日目は一隻が〇・七キ採っただけ。途中で引き返して漁獲が上がっていない漁業者も多かったという。

福岡県有明海漁連は、水揚げ高が確定していないが「五キ以上は採れているが、十キに達するかどうか。過去最低は間違いない」としている。

佐賀では最盛期の昭和五十年代には千ト超の水揚げがあったが、年々減少し、潜水漁でこれまでの最低は二〇〇年度の七キだった。生息数が少なかった今季、両県の漁場は福岡県大牟田市沖の一部に限られていた。佐賀県有明海漁協は「立ち枯れ死やナルトビエイの被害を受けたタイラギが多かった。来季も手探り状態が続くだろう」としている。

2008年(平成20年)4月12日 朝日新聞 35 長崎

「諫干被害」提訴へ

漁業不振「工事の影響」

原告団集会 漁師ら訴え

国営諫早湾干拓事業により漁業への被害を受けたとして、5月上旬にも国に損害賠償などを求める新たな訴訟を起こす漁師や弁護士ら35人が11日、佐賀県太良町で原告団結成集会を開いた。原告には、諫早湾周辺で暮らす長崎、佐賀両県の計約60人が加わる見込みという。湾周辺の漁師が連携して立ち上がった。



「魚ができる海に戻してほしい」と訴える原告団長で漁師の松永秀則さん(右)と馬奈木昭雄・弁護団長＝佐賀県太良町

集会に参加した原告団長の漁師、松永秀則さん(54)は「諫早湾干拓事業は、干拓工事による漁業不振は干拓工事による影響」と確信しているという。工事前、国から「工事後も漁業はできる」と説明されていた。だが、干拓工事が終わった後も有明海の水質は回復せず、昔のように漁業ができなくなった。同町の小長井町漁協を含む湾内4漁協の漁師らは漁業で生活できなくなった。その結果、干拓工事

を請け負う人も多く、国にだまされたという気持ちがある。松永さんは「これまで雇用という国の『あめ玉』に縛られ、提訴できない人もいたが、工事が終わった今、みんなが訴えることができる」と話した。工事差し止め訴訟など同事業をめぐる一連の訴訟を支援してきた馬奈木昭雄・弁護団長(66)は「干拓事業はもう完成してしまった。漁業被害を明らかにし、抜本的な解決をめざす」と力を込めた。原告団は、潮受け堤防の排水門を開門すれば海の水質は再生し、魚ができるようになる」と主張する。諫早湾では、干拓工事が始まった直後の93年から高級二枚貝のタイラギが死に絶えるようになり、休漁が続く。養殖アサリも激減した。一方、潮受け堤防に仕切られ淡水化された調整池は農業用水に使われる予定だ。だが、アオコが大量発生して環境が悪化し、水質は県が定めた基準に達していない。



砂地のアサリ 海中へ避難

ネットのかごにアサリを入れて、いかだからつり下げる準備をする漁業者ら＝諫早市小長井町沖

諫早の漁協、つり下げ実験

諫早湾沿岸で昨年夏、養殖アサリが大量死したのを受け、諫早市の小長井町漁協(新宮隆喜組合長)は、砂地に生息するアサリを海中につり下げることで死滅を防ぐ実験を始めた。赤潮の影響で酸素濃度が低くなり、ちな海底からアサリを「避難」させて、大量死を避けるのを狙った全国でも珍しい試みだ。

26日早朝、養殖業者ら20人以上が約10隻の漁船に乗って地元港を出た。沖合約300mで船を止め、ひさや腰ほどの深さの泥濘じりの海底からアサリを捕獲。10mずつに仕分けし、2重にしたネットのかごに入れた。沖合1mに浮かぶかき網の養殖いかだに次々とつるしていった。同漁協は、29日まで4基のいかだに約1200のかごをつり下げ、水深1～2mの海中で9月中旬ごろまで育てる。漁協と市が毎週、生存率や成長具合などを調査する。3年間にわた

海底は酸素薄 死滅の恐れ

つて実験をする予定で、今年度の事業費91.3万円のうち、県や市などが88.0万円を補助する。

アサリは砂地で養殖するのが一般的だが、昨夏は壊滅的な被害が出た。市農林水産部によると、赤潮の原因となる植物プランクトンが酸素を大量に消費しながら死に、海底に沈んでもバクテリアによる分解でさらに酸素を消費する。海水の循環が少なく、酸素濃度が著しく低下したのが原因とみている。

対策に頭を悩ませていた漁協が県に相談したところ、県が実験を提案した。県総合水産試験場が06年冬、諫早湾でアサリを海中につるす実験をしたところ、砂地のアサリより育ち、実入りもよかったためだ。

漁協は昨夏のアサリ被害で、億円以上の被害が出たと算出した。養殖業者の一人は「とにかく生活が苦しい。わらにもすがらる思いで実験に賭けたい」と話していた。

諫早湾や有明海で赤潮

諫早湾内や湾外側の佐賀県沖の有明海などで赤潮が7月26日から発生しており、県は周辺漁協に警戒を呼びかけるとともに、漁業被害について調査を進めている。

県、警戒呼びかけ

県総合水産試験場(長崎市)などによると、1日までの調査で確認された主な植物プランクトンの細胞は4種。このうち魚類に対して毒性が強い「シャトネラ・アンティーカ」など2種がまとまって見つかったのは今年初めて。この2種は昨年夏にも大量発生しており、アサリの大量死などの被害が出た。20～32.5度と水温が上がる時期に大発生する傾向がある。

有明海沿岸 魚介類大量死 調査や原因究明要望

訴訟支援者ら



ハゼやワタリガニなどの死骸
を手にする松永さん＝諫早市
小長井町

諫早市や佐賀県太良町の有明海沿岸でハゼやボラなど大量の魚介類が死んでいるのが見つかった13日、有明海訴訟の支援者らは被害状況の調査に現地へ向かった。一帯では7月下旬から赤潮が発生しているが、大量死の原因や被害の範囲は分からないまま。支援者らは諫早湾干拓事業が何らかの影響を及ぼした可能性もあるとみて、九州農政局(熊本市)や長崎県、諫早市に対し、漁業被害の現地調査と原因究明を申し入れた。(加藤勝利)

正午前、JR小長井駅近くの海岸には腐敗臭が漂っていた。辺り一面に広がるハゼの死骸は体長数センチから十数センチほど。強い日差しを浴びて干からびている。

支援者による調査に同行した小長井町漁協理事の松永秀則さん(54)は、死んだハゼやワタリガニやカレイ、エビなどを手に取った。「干拓事業が原因に間違いない」と険しい表情で語る。

この日午前5時半ごろ、松永さんが出漁の準備で近くの港に着くと、魚があえぐよううに海面に浮いているのを見つけた。その後に入手した情報では、同市を中心とした有明海西岸で数日から十数日にわたってハゼなどの死骸が打ち上がったという。

松永さんや支援者によると、「ギロチン」と呼ばれる293枚の鋼板で諫早湾を閉め切った97年4月以降、沿岸では魚介類の大量死が数度にわたって起きた。昨年夏も、養殖アサリの大量死が見つかった数日前に、やはり魚が死んでいたという。

湾内では先月26日から赤潮が発生している。原因である植物プランクトンは海中の酸素を消費し、死んだ後もバクテリアが分解するため、さらに海底の酸素が奪われる。

「湾を閉め切った潮受け堤防で海水の循環が妨げられた現状では、酸素濃度が著しく低下した状態が続く」と松永さん。「昨年のようにアサリが大量に死んでいないか心配だ。ハゼなどの魚介類と同様、漁師の生活の糧だから」とつぶやいた。

「よみがえれ!有明海訴訟を支援する全国の会」の岩井三樹事務局長も、「こんな不可解な現象を解明するには、堤防の排水門を開けて調べるしかない」と語った。

2008年(平成20年)8月19日 読売新聞西部本社 35 社会

諫早湾に「青潮」 貧酸素原因

長崎県の諫早湾で15日、海面が青白く変色する「青潮」とみられる現象が起きた。海中の酸素欠乏が原因とされる。同湾沿岸などでは12、13日に魚介類の大量死が見つかっており、専門家は「貧酸素が一因だった可能性を示している」と指摘している。

写真撮影した諫早市の坂田輝行さん(60)によると、15日午後3時ごろ、国営諫早湾干拓事業

で造られた潮受け堤防外側の海面が、南北方向に約7㌔、東西方向に数百㌔にわたり青白くなっていた＝写真＝

独立行政法人・水産総合研究センター中央水産研究所の元所員で、海洋化学が専門の佐々木克之さんによると、海底近くの水が酸欠状態になると硫化水素が発生する。硫化水素が大气に触れて酸化され、硫黄の粒子が生じ、光を反射することなどが



ら、海が青白く見えると考えられている。

佐々木さんによると、海中酸素濃度が30%を下回ると魚類の生息は困難という。農林水産省

によると、潮受け堤防の北部排水門近くでは、13日午前5時～15日午後3時の海中酸素濃度は3%以下、坂田さんが撮影した時間帯は1.8%だった。

タイラギ漁 今年も休漁

諫早湾、16年連続

長崎県諫早市の小長井町漁協など諫早湾内の三漁協は二十三日、同湾で

大型の二枚貝タイラギの成育状況を調査したが、漁の対象となる成員（二十五歳以上）は確認できず、十六年連続で休漁となる見通しとなった。

一方、二年ぶりに稚貝を確認し、来年以降の漁再開に望みをつないだ。

湾口近くの漁場四十地点で調査した。各地点で約三分間潜水し、タイラギの生息数を調べた。昨年は成貝も稚貝も見つからなかったが、今年は十

七地点でふ化後一年以内とみられる三十九歳の稚貝を確認した。稚貝の数は二一三七個とばらつきがあったものの、二年前の調査に比べて九地点増えたという。

タイラギが成貝に育つには二、三年を要し、今年の漁再開は困難。小長井町漁協は、二年ぶりの稚貝の確認について

「一過性なのか、長期的に成育できる環境に変わったのか、今後の状況を見たい」と期待している。

一方、昨年は残暑による海水温上昇で激減したカキは十一月一日にも出荷が始まる見通し。過去最高の数量も見込まれるほど成育順調という。

一方、昨年は残暑による海水温上昇で激減したカキは十一月一日にも出荷が始まる見通し。過去最高の数量も見込まれるほど成育順調という。

一方、昨年は残暑による海水温上昇で激減したカキは十一月一日にも出荷が始まる見通し。過去最高の数量も見込まれるほど成育順調という。

排水門、大雨開門に抗議

県に小長井町漁協「事前協議の徹底を」

大雨で農地が浸水したと、調整池の水位が上昇したため、開門した。市営の国営諫早湾干拓事業・潮受け堤防の排水門を開門したことを巡り、諫早市の小長井町漁協（新宮隆喜組合長）の理事ら16人が6日、県庁を訪れ、「排水による漁業被害は甚大」などと抗議し、排水前の事前協議を徹底し、今後、対策づくりを進めるよう求めた。

県農林部によると、3日、調整池に面した諫早市森山町の水田など約60平方メートルが

新宮組合長は「非常時に門を開けるのは仕方ないが、事前の排水対策ができておらず、（漁協に連絡をせず）開門するのは問題」と述べ、「防災対策や農業者のためなら漁民が被害を受けてもいいのか」と強く批判。漁業者らは「アサリの稚貝が死ぬと、漁場回復に2〜3年はかかる。今後の対策を示すべき」と声を荒らげた。

県側は中村法道副知事、農林部幹部ら約10人が対応。中村副知事は「開門を避けるために水位調整に努力したが、予想を超える雨

「今後の対策を示すべき」などと抗議する漁業者ら（県庁で）



量で、防災のためにやむを得なかった」と説明し、理解を求めた。

2009年(平成21年)8月6日 読売新聞 23 地域・長崎

諫早湾でアサリ大量死

有明海沿岸で赤潮発生に伴う漁業被害が相次ぐなか、諫早市沿岸のアサリ養殖場で、アサリが大量死していることが5日、わかった。

同市の小長井町漁協などが調査した。同漁協理事の松永秀則さん(55)の養殖場で、アサリが大量死していることが5日、わかった。

諫早湾では、7月下旬から、毒性の強いプランクトン「シャットネラ」による赤潮の発生が拡大している。



タイラギ漁 明暗の解禁

長崎

17年連続休漁

高級二枚貝タイラギの漁が、福岡・佐賀両県の有明海沿岸で解禁された。初日の13日は、佐賀県有明海漁協大浦支所の水揚げが前年解禁日の8倍となるなど、近年にない大漁の滑り出しとなった。国営諫早湾干拓事業(諫早市)を境に漁獲が激減し、断続的に休漁を繰り返してきた。だが、今季は順調な生育が確認され、福岡・佐賀両県の漁獲量は、同干拓事業の堤防が閉め切られた1997年度並みの水準に回復すると見込む。一方、長崎県は今年も生育状況が回復しておらず、17年連続で休漁を決めている。

13日早朝。佐賀県太良町沖の3〜10メートルの漁場には、同町や福岡県柳川市などから漁船50隻が出た。漁師たちが海に潜って海底に仕掛けた網を揚げ、船上で女性たちが殻から

身を外すと、甲板はすぐに貝殻であふれた。

所属漁船20隻が出漁した大浦支所では、この日、貝柱の水揚げが421キログラムと、前年の50キログラムをはるかに超えた。

福岡・佐賀

大漁スタート



福岡・佐賀両県は10〜11月に漁場を調査し、前年の50倍近い成長約4800センチ(貝柱換算300センチ)が生育していると推定。両県の漁業者らでつくる合同の漁業調整委員会が11月26日、解禁日を前年より10日前倒しすると決定した。漁期は来年4月末までで、佐賀県水産課は実際の漁獲高を、生息数の約3分の1

に当たる100センチ程度と見込

む。佐賀県有明海漁協では漁獲量が減り始めた90年代から、海底を耕して貝が育ちやすい環境の回復を進めており、同漁協の担当者は「海を守ろうとする地道な取り組みが実を結び始めたのではないか」と指摘する。

一方、長崎県では、小長井

とれたタイラギで足の踏み場もない漁船の甲板。佐賀県太良町沖の有明海、波多野陽撮影

漁協(諫早市)など諫早湾内3漁協が10月に湾内の40地点で潜水調査をしたところ、16地点で2〜50個、計188個の成長を確認した。成長の確認は数年ぶりだ。出荷基準となる体長15センチ以上の貝も100個あまり見つかった。

ただ、長崎県資源管理課によると「この程度ではまだ操業できるレベルにはなく、来年以降の生育もまだ不明。とても操業できる状態にない」といい、休漁を決めている。タイラギは水深5〜20メートルの砂泥質の海底に生息する。有明海は全国有数の産地で、1960年代には年間の漁獲量が3万トンを超していた。

意見書と要望を提出

3月定例会では、議員発議として提出された意見書と要望を可決し、関係機関に提出しました。

諫早湾の漁場再生等に関する意見書

国営諫早湾干拓事業に伴う、諫早湾の残存海域の水産振興については、これまで本市においても継続的に特別対策を実施し推進してきたところであります。

しかしながら、主要漁獲物であるアサリをはじめ、漁獲高は年々減少傾向にあり、漁業経営は大変厳しい状況となっています。

そのような中、昨年8月上旬頃から発生した赤潮や貧酸素水塊の影響により、養殖アサリがほぼ全滅し、更には、諫早湾の新たな振興策として取り組んでいた養殖カキの九割が死滅するなど、多くの漁業者が深刻な被害を受けました。

本市は県と共に、緊急的に漁場への覆砂や種苗放流事業などへの支援を行いました。が、諫早湾の漁場はいまだ回復する状況ではなく、非常に厳しい事態が続いています。

よって、一日も早い漁場再生のためにも、国におかれましては、下記の事項について特段の措置を講じていただきますよう強く要望いたします。

記

- 1 諫早湾の漁場再生・水産業振興対策事業並びに調整池の排水対策及び水質保全のための生活排水対策事業に係る財政支援
- 2 赤潮等の原因究明及び対策
- 3 漁業共済制度の拡充

以上、地方自治法第99条の規定に基づき意見書を提出します。

平成20年3月26日

諫 早 市 議 会

(提出先 内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、農林水産大臣、衆議院議長、参議院議長)

市発注工事における市内業者の活用等に関する意見書

我が国の経済は、長期にわたり景気回復基調にあると言われているものの、建設投資の大幅な縮減により、建設業界は逼迫した経営状態が続いている。中でも公共事業依存度の高い地方建設業は、需給バランスが崩壊する中で、経営悪化に拍車をかける深刻な状況となっている。建設産業は関連業者も多岐にわたり、地域経済の活性化や雇用の確保に大きな役割を担っていることから、その衰退が地域経済に及ぼす影響は極めて大きい。

現状において、本市が発注する工事における市内業者の受注率は概ね90パーセントと聞いているが、ここ数年、市内の建設業者が倒産、廃業に追い込まれていることも事実である。

よって、市内建設業界の厳しい経営状況に鑑み、今後も本市発注工事において市内業者の優先活用を図ることはもとより、設計及び工事の下請けや資材・機材の調達において市内業者が更に活用されるような方策や最低制限価格の緩和など入札制度の改善を要望する。

平成20年3月26日

諫 早 市 議 会

(提出先 諫早市長)

